

# 百姓おどい

お米作りを学ぼう！！



① 田起し

三本鍬や四本鍬を使って、硬くなっている土を掘り起こす作業の様子です。



② 肥料まき

干し草と桶に入っている肥料を混ぜて田畑全体にまき散らします。



③ 田植え

苗の束を左手に持ち何本かの苗を掴んで、そのまま土に植えていきます。



④ 稲刈り

右手に鎌を持ち、すいすいと稲を刈り取っていきます。



⑤ 稲こぎ

足踏み脱穀機を使っての脱穀の様子を表しています。



⑥ 台唐

玄米を白米に精米するときに使った足ふみ式のシーソーのような道具を表しています。



⑦ つめ

竹で編んだ箕という道具で白米を俵に詰めて紐でしめる作業です。

## 《舞踊集団菊の会 プロフィール》

- 1972年 尾上菊乃里こと故畑道代によって設立。(六代目尾上菊五郎の創流した尾上流で、二代自家元初代尾上菊之丞に薫陶を受けた。)
- 1976年 文化庁芸術祭において優秀賞受賞。(「カッチャ行かねかこの道を」) これまで民俗芸能をモチーフにした舞踊劇を数多く創作。(「藍の女」「ほんだ通り」「阿国かぶき」「追分の女」他)
- 1986年 外務大臣より表彰を受ける。(この前年、中近東5ヶ国を訪問)  
※(現在までに世界延べ65ヶ国 107都市で外務省事業・文化庁事業等での海外公演を行っています。)
- 1988年 黒澤明監督の作品映画「夢」の振付を畑道代が担当、団員が出演。
- 1993年 第14回松尾芸能賞舞踊特別賞受賞。
- 1997年 東京新聞社主催「舞踊芸術賞」受賞。東京新聞社主催の全国舞踊コンクール邦楽部門で10年に亘り上位(1位2位3位)入賞。(平成9.10.11.12.13.14.15.16.17.19.30年度)
- 2014年 小泉真史監督作品「蜩ノ記」の振付を畑聡が担当、団員が出演。
- 2016年 ヘルベリ共和国に菊の会舞踊教室を開設。(首都圏・京都の23教室で舞踊教室を続けている)
- 2021年 小泉真史監督作品 映画「峠」-最後のサムライ-の振付を畑聡が担当、団員が出演

舞踊集団 菊の会 事務局

〒161-0031 東京都新宿区西落合 2-21-23 TEL 03-5983-6001 / FAX 03-5983-6002

菊の会

e-mail info@kikunokai.co.jp



みて・きいて・おどって感じる日本の心  
オモシロ



# 民俗芸能の魅力発見

令和3年度

文化芸術による子供育成総合事業

一巡回公演事業一



「文化芸術による子供育成総合事業 一巡回公演事業一」  
我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。  
事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。

知ってますか？～10月1日は「国際音楽の日」です～  
1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。  
日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

# 舞踊集団 菊の会

## みて・きいて・おどって感じる日本の心 オモシロ 民俗芸能の魅力発見

生演奏による臨場感に加えて、演目ごとの特色あるリズム感、情緒感、趣の異なる衣装や手にする道具等、視覚・聴覚に直接訴える迫力と古来から受け継がれ、込められてきた「願い」「思い」そして「祈り」を間近で体感してもらいます。日本各地の民俗芸能に触れることにより、自分たちの地域の民俗芸能にも興味を持つ良いきっかけになることを願い、選曲しました。



### 「さなぶり荒馬」(青森県)

田植え後に、豊作を祈願して奉納した口承芸能。馬の他、獅子や猿も登場して賑やかな囃子で、客席後方から生徒の中を通過して舞台まで楽しく入場します。

### 「獅子踊」(岩手県)

長いササラを背負い、腰に付けた太鼓を激しく打ち鳴らし念仏調の踊り唄を自ら唄いながら勇壮に舞うダイナミックな芸能です。



#### ワークショップI

#### 〔装束をさわってみよう〕

今舞台をつとめた鹿躍の扮装を外していき、装束や道具の解説をしながら頭や太鼓を代表の生徒さんにつけてもらい演者と一緒に簡単な振りを踊ってみて実際の重量感を体験して頂きます。

#### ワークショップII

#### 〔お米づくりをみてみよう〕

次の演目の「百姓おどり」で使用する小道具を説明しながら、昔ながらのお米が出来るまでを見ていき、演目の最後に俵が積みあがったあとは全員で手拍子をして参加してお米が出来た喜びを共に感じます。

### 「百姓おどり」(岩手県)

五穀豊穡を祈願し奉納されてきた踊りで、一年間のお米作りの中で鍬や鎌を使って伝統的な農作業の様子をコミカルに踊ります。

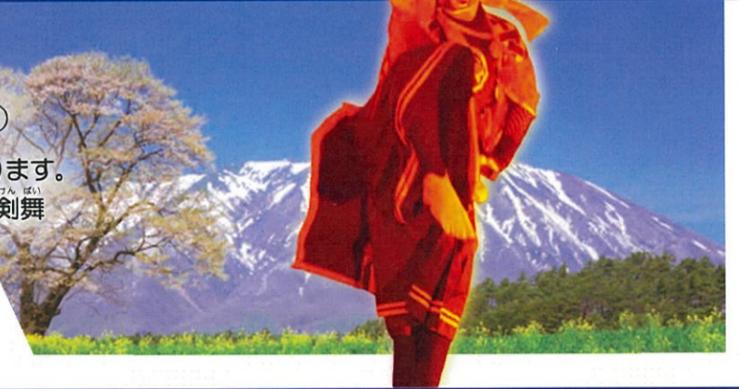


### 「飾山囃子」(秋田県)

飾山という人形などを飾った山車の上で演じられてきた芸能で、秋田の祭礼に娘たちが華やかに踊ります。

### 「鬼剣舞“一人加護”」(岩手県)

鬼面(仏の化身)を付け、刀と扇子を扱いながら勇壮に踊ります。鬼剣舞の数ある演目の中でも“一番庭”“八人加護”と共に剣舞を代表する演目です。



### 「銭太鼓」(島根県)

かつては竹の筒の中に古銭を入れて、両端にふさを付けたリズム楽器の銭太鼓を打ち振って“隠岐相撲取節”にのせてリズムカルに踊ります。

### 「傘おどり」(鳥取県)

昔、雨乞いの為に踊られたのが始まりとされるこの踊りは、鈴と色紙で飾った傘を廻しつつ、元唄“貝殻節”にのせて踊ります。



#### ワークショップIII

#### 〔日本の楽器の音色を体験〕

日本の伝統的な楽器を紹介。(三味線・太鼓・締め太鼓・笛・鉦)



### 「阿波踊り」(徳島県)

築城の祝いに城主が、武士も町民も隔てなく踊らせたのが始まりとも言われています。日本三大盆踊りの一つです。

### 「八木節」(群馬県)

提灯、菅笠、花笠、唐傘等を扱いながら活気のある囃子と唄で明るく賑やかに踊ります。

〈代表の生徒さんも踊ります。〉



# 百姓おどい

こめづくり まな  
お米作りを学ぼう！！



①【田起こし】

三本鍬や四本鍬を使って、硬くなっている土を掘り起こす作業の様子です。



②【肥料まき】

干し草と桶に入っている肥料を混ぜて田畑全体にまき散らします。



③【田植え】

苗の束を左手に持ち何本かの苗を掴んで、そのまま土に植えていきます。



④【稲刈り】

右手に鎌を持ち、すいすいと稲を刈り取っていきます。



⑤【稲こき】

足踏み脱穀機を使っての脱穀の様子を表しています。



⑥【台唐】

玄米を白米に精米するときに使った足踏み式のシーソーのような道具を表しています。



⑦【俵積み】

竹で編んだ箕という道具で白米を俵に詰めて紐でしめる作業です。

## 《舞踊集団菊の会 プロフィール》

- 1972年 尾上菊乃里こと故畑道代によって設立。(六代目尾上菊五郎の創流した尾上流で、二代自家元初代尾上菊之丞に薫陶を受けた。)
- 1976年 文化庁芸術祭において優秀賞受賞。(「カッチャ行かねがこの道を」) これまで民俗芸能をモチーフにした舞踊劇を数多く創作。(「藍の女」「にほん大通り」「阿国かぶき」「追分の女」他)
- 1986年 外務大臣より表彰を受ける。(この前年、中近東5ヶ国を訪問)  
※(現在までに世界延べ65ヶ国 107都市で外務省事業・文化庁事業等での海外公演を行っています。)
- 1988年 黒澤明監督の作品映画「夢」の振付を畑道代が担当、団員が出演。
- 1993年 第14回松尾芸能賞舞踊特別賞受賞。
- 1997年 東京新聞社主催「舞踊芸術賞」受賞。東京新聞社主催の全国舞踊コンクール邦楽部門で10年に亘り上位(1位2位3位)入賞。(平成9.10.11.12.13.14.15.16.17.19.30年度)
- 2014年 小泉真史監督作品「蝸ノ記」の振付を畑聡が担当、団員が出演。
- 2016年 ペルー共和国に菊の会舞踊教室を開校。(首都圏・京都の23教室で舞踊教室を続けている)
- 2021年 小泉真史監督作品 映画「峠」-最後のサムライ-の振付を畑聡が担当、団員が出演

舞踊集団 菊の会 事務局

〒161-0031 東京都新宿区西落合 2-21-23 TEL 03-5983-6001 / FAX 03-5983-6002

菊の会

e-mail info@kikunokai.co.jp



みて・きいて・おどって感じる日本の心  
オモシロ



# 民俗芸能の魅力発見

令和3年度

文化芸術による子供育成総合事業

一巡回公演事業一



「文化芸術による子供育成総合事業 一巡回公演事業一」  
我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。  
事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。

知ってますか？～10月1日は「国際音楽の日」です～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良く交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

舞踊集団 菊の会

みて・きいて・おどって感じる日本の心  
オモシロ  
民俗芸能の魅力発見

生演奏による臨場感に加えて、演目ごとの特色あるリズム感、情緒感、趣の異なる扮装や手にする道具等、視覚・聴覚に直接訴える迫力と古来から受け継がれ、込められてきた「願い」「思い」そして「祈り」を間近で体感してもらいます。日本各地の民俗芸能に触れることにより、自分たちの地域の民俗芸能にも興味を持つ良いきっかけになることを願い、選曲しました。



「さなぶり荒馬」(青森県)

田植え後に、豊作を祈願して奉納した口承芸能。馬の他、獅子や猿も登場して賑やかな囃子で、客席後方から生徒の中を通過して舞台まで楽しく入場します。

「獅子踊」(岩手県)

長いササラを背負い、腰に付けた太鼓を激しく打ち鳴らし念仏調の踊り唄を自ら唄いながら勇壮に舞うダイナミックな芸能です。



ワークショップI

〔装束をみてみよう!〕

今舞台をつとめた鹿躍の扮装を外して、装束や道具の解説をしていきます。頭や太鼓の重さを身近な物に例えて皆さんに実際の重量感をみて感じて体験して頂きます。

ワークショップII

〔お米づくりをみてみよう〕

次の演目の「百姓おどり」で使用の小道具を説明しながら、昔ながらのお米が出来るまでを見ていき、演目の最後に俵が積みあがったあとは全員で手拍子をして参加してお米が出来た喜びを共に感じます。

「百姓おどり」(岩手県)

五穀豊穡を祈願し奉納されてきた踊りで、一年間のお米作りの中で鍬や鎌を使って伝統的な農作業の様子をコミカルに踊ります。

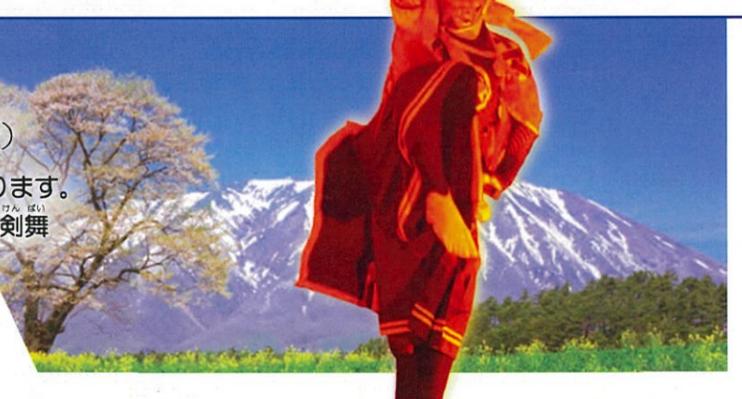


「飾山囃子」(秋田県)

飾山という人形などを飾った山車の上で演じられてきた芸能で、秋田の祭礼に娘たちが華やかに踊ります。

「鬼剣舞“一人加護”」(岩手県)

鬼面(仏の化身)を付け、刀と扇子を扱いながら勇壮に踊ります。鬼剣舞の数ある演目の中でも“一番庭”“八人加護”と共に剣舞を代表する演目です。



「銭太鼓」(島根県)

かつては竹の筒の中に古銭を入れて、両端にふさを付けたリズム楽器の銭太鼓を打ち振って“隠岐相撲取節”にのせてリズムカルに踊ります。

「傘おどり」(鳥取県)

昔、雨乞いの為に踊られたのが始まりとされるこの踊りは、鈴と色紙で飾った傘を廻しつつ、元唄“貝殻節”にのせて踊ります。



ワークショップIII

〔日本の楽器の音色を体験〕

日本の伝統的な楽器を紹介。(三味線・太鼓・締め太鼓・笛・鉦)



「阿波踊り」(徳島県)

築城の祝いに城主が、武士も町民も隔てなく踊らせたのが始まりとも言われています。日本三大盆踊りの一つです。

「八木節」(群馬県)

提灯、菅笠、花笠、唐傘等を扱いながら活気のある囃子と唄で明るく賑やかに踊ります。

〈代表の生徒さんも踊ります。〉

